

The Management Data File

経営者データファイル

お名前……………後藤 敏公
生年月日……………1960年9月3日
愛知県生まれ
身長……………168cm
体重……………77kg
平均睡眠時間……………5~6時間
平均起床時間……………午前7時20分
趣味……………ギター演奏

乗っている車……………レガシー
ツーリングワゴン
家族……………母、妻、子ども3人
今までに訪れた国……………10カ国
座右の銘……………We must be over
the Rainbow
好きな食べ物……………何でもOK
(食べる相手を考えて出された料理は
どんなものでも最高!!)
嫌いな食べ物……………なし

「社長になるまでには、どんな紆余曲折があったのでしょうか。後藤…26歳で技術を離れて経理に行きました。次期経営者として勉強しておけということ。その後、28歳で技術部長が退職して、その後釜になりました。忙しくてみな月100時間を越える残業が3

した。でも、がまんして3年やったら実力もついていったんです。その頃、ある一部上場企業の設計者から「僕の書いた図面をこれだけ理解して、製品を作ってくれなら、安心して任せられる」と評価してもらえたんです。嬉しかったですね。「これでは指示書になっていない」と叩かれた金型屋さんからも、「よくやれるようになったな」と少しは認めてもらえるようになりました(笑)。

「デザインや試作を始めたきっかけは何ですか。後藤…あるお客さんに頼まれたことがきっかけです。当社には創業して55年という老舗の看板があつて、樹脂加工会社としてはそこそこの知名度があります。創業者である親父のエピソードを聞くと、行動力のあるなかなかのアイデアマンのようでした。私もアイデアを出すのが好きで、難問を出されると燃えるタイプ

なんです(笑)。ある時、当社の評判を聞いたお客さんから試作のお問い合わせを頂いて、私もこのチャンスを活かそうと思いい、知恵を絞ってご提案しました。そうやって、解決策や代替案をご提案して、面白くなりました。——後藤さんにとって、父親とはどういう存在だったのですか。後藤…親父の印象は特にありませんね。あまり家に帰ってきませんでした。だから、でも、その中でも印象に残っていることと言えば、小学生の時夏休みの宿題の工作を横取りされたこと(笑)。親父がノコギリ引いたりクギ打ったりするのを見てやり方を覚えさせました。私は3、4歳の頃からよくプラモデルを買ってもらっていましたが、そういう工作が大好きでしたね。親父は中学2年の時に肝硬変で

亡くなりました。でも、正直に話すのと、親父が亡くなった当初は、親父の死の実感はありませんでした。どちらかというと私は親父の死に無関心だった。でも、その後、実際に自分がいよいよ本気で会社を継ぐという時。その時に、会社での親父の存在の大きさを思い知ることになりました。日に日に強くなる創業者としての親父の存在感。ヒシヒシと感じるようになってきましたね。やはり創業者としての親父の存在は巨大だったんです。そのギャップがすごかった。

「ところで、ギター演奏をされているとか。後藤…中学2年の時、親父から死ぬ直前にフォークギターを買ってもらったから。高校ではフォークソング同好会に入っていました。実習で忙しかった専門学校時代から、会社に入って結婚、特に子供が生まれてからは、ギターは封印状態になってしまいました。5年前に家を建てた時に音楽を聴く部屋をつくってまた弾き始め、火がついたんです。仲間とバンドを組んでポップスやロックの演奏をしています。そういう小集団をコントロールするのは仕事にも通じるものがありますね。そして、いい楽器を持っているだけではダメなんです。なかなか出せない良い音を出すためには、テクニックだけではなく関連した知識も併せて練習して磨くわけです。

「仕事のやりがいとはどういったところに感じていますか。後藤…モノづくりの面白さは、自分たちが手がけた目に見えるものが世の中に残って、人に使って喜んでもらえること。それで社会に貢献できることです。突出する技術を急ぐモノにするのは難しいことです。やはり小さなことをコツコツ積み重ねていくしか夢を追うことはできない。ドレミが弾けないと演奏できないのと同じです。

当社では、「創造 成長 感謝」という理念を掲げています。創造力を生かせば成長できる。しかし、一人でやれるわけではない。周囲に感謝する気持ちを持つことで、初めてチャンスが与えられるのです。人を根んでは成長できない。自分をいじめた人に対しても感謝することで、いじめられたということから脱却できるのです。——最後に、学生へのメッセージをお願いします。後藤…今、自己主張するだけの人が増えているように思います。学生時代は何をやってもいいですが、やりたいことをしっかり人に伝えて、そのことについて周囲はどう思うかわかったうえでやってほしい。自分ひとりで満足しては一人よがり、自分が満足することで周りも満足できるようなこと(幸せ、楽しみ、何でもいからプラスになること)を探して取り組んでほしいと思います。主張 権利をするなら、気遣い(義務)も同時に合わせ持つて考えて欲しいですね。

会社概要 株式会社 **みづほ合成工業所**
本社所在地 ● 愛知県名古屋市中川区乗越町2-41
創業 ● 1951年7月 資本金 ● 1800万円
事業内容 ● 合成樹脂成型加工および電機部品製造販売 従業員数 ● 45名
売上高 ● 12億円(2005年度)
URL ● <http://www.mizuho-go.co.jp/>
就職情報は **コチラ**



Profile 後藤 敏公 (ごとう としひろ)
1960年、愛知県生まれ。高校卒業後、作業療法士を目指して専門学校に進学。21歳の時に父親と伯父が創業したみづほ合成工業所に入社。製造現場を皮切りに、経理、技術部長、取締役を経て2002年に代表取締役社長に就任。中学2年から始めたギター演奏はセミプロ級の腕前。

多彩な加工技術で幅広いプラスチック部品を製造するみづほ合成工業所。同社社長の後藤敏公は、セミプロ顔負けのギターリストでもある。現場から苦勞して叩き上げてきた人間好きだけに、同社には技術と人材のハイモニーが響いている。

仕事もギター演奏も同じ。

いい音を出すためにはひたすら練習する!

みづほ合成工業所 代表取締役社長 **後藤 敏公** としひろ

モノづくりもギター演奏も基本が大切

「みづほ合成工業所に入社したのは自ら望まれてのことですか。後藤…いえ、全くそのつもりはありませんでした。私以外に後継者がいないというところで、周囲から無理やり外堀を埋められて仕方なく入ったんです。徹底抗戦したんですが、押し切られました(笑)。高校生の頃から、自分では人から使われるのはダメなタイプだと思っていたんです。親父に反発していたので経営者にもなりたくなかった。ならば手に職をつけて1箇所がダメでも次に行けばいいという状況にしておこう、そう考えて作業療法士に関心を持ち、医療系の専門学校に進学

「会社に入っていくがでしたか。後藤…せめて下の妹が大学に入るまでの3年間はがまんして働こうと思っていました。当初は図面もよく読めないのに、色鉛筆で色分けして平面図から立体図を思い描いたりして勉強しましたね。最初の頃は小僧扱いですよ。金型屋さんからは、「これでは指示書になっていない」と叩かれて、ずいぶん悔しい思いもし

「突出する技術をモノにするのは難しいこと。やはり小さなことをコツコツ積み重ねていくことが、夢を追うには必要です。」

「細かな作業に技術者の目が光る」